

日時：2016年12月17日（土）15:00～18:20

場所：東洋大学 6号館 第3会議室

出席者：渡邊芳之理事長、藤田主一副理事長、尾見康博、加藤司、荒川歩、小塩真司、
山崎晴美、北村英哉、中村真

欠席者：松田英子（審議事項を理事長に委任）

日本パーソナリティ心理学会第122回常任理事会

報告事項

I 理事長挨拶

II 各種委員会報告（各種委員会からの審議依頼事項を含む）

1 機関誌編集委員会（加藤委員長）

(1) 「パーソナリティ研究」 第25巻第3号

現在、著者稿依頼中。予定通り3月に出版予定。J-STAGEには早ければ年内に掲載可能（著者稿次第）。掲載論文は以下の通り。PDF版はすでに完成。このあと、最終チェック・修正を経て、j-stage上で閲覧可能になる見込み。

種別	題目	筆頭者	受稿	採択
原著	アタッチメントスタイルと親イメージの関連—20 答法による探索的検討	田附紘平	2015/2/3	2015/9/30
原著	子どもの気質と関連する遊びが養育者の遊びにおける対処可能感を介して育児不安、育児満足に及ぼす影響	門田昌子	2015/3/25	2016/5/31
ショート	恋愛関係における接近・回避コミットメントと投資モデルの関連	古村健太郎	2015/8/14	2016/6/6
ショート	中学生のやりがいと人生の意味との関連	濱野佐代子	2015/8/10	2016/6/6
ショート	児童における社会的目標構造の認知と協同的な学習活動—動機づけを介する過程の検討	岡田涼	2016/2/12	2016/6/28
原著	日本語版擬人化尺度の作成	上出 寛子	2016/4/12	2016/8/1
ショート	境界性パーソナリティ傾向者に対する認知的再構成の手続きが見捨てられスキーマの変容に及ぼす効果	井合真海子	2016/3/12	2016/8/26
原著	動機づけの葛藤は中学生の学業達成を抑制するか—社会調査データの二次分析から—	解良優基	2016/3/5	2016/9/13

(2) 第26巻第1号

現在、採択論文、原著5、ショート1編、依頼論文1編。うち、原著4編、依頼論文を国

際文献社内でもグラ作成中。採択とほぼ同時にグラの作成を実施する予定。4 月以降、J-STAGE に 1 本ずつアップできるようになる見込み (J-STAGE との契約による)。

渡邊理事長より、投稿数の推移をチェックしてほしい旨の要望があった。年間 30 本程度を目安とし、内容の充実化もはかっていきたい (加藤)。

(3) 審査状況

月	採択	審査中	修正中	不採択	取り下げ
1	8	15	20	2	1
2	3	10	16	2	1
3	3	16	12	0	0
4	1	22	21	1	2
5	1	10	19	5	2
6	3	17	4	5	5
7	0	13	11	4	0
8	2	17	9	4	1
9	2	13	9	2	0
10	3	15	6	1	0
11	2	13	8	2	2

(4) J-STAGE への移行に関して

学会抄録、機関誌の J-STAGE への移管に関して、現在、J-STAGE 側とやり取りをしている最中であるとの報告があった。

(5) 日本語校閲について (審議依頼事項)

加藤委員長より日本語校閲について、以下の通り報告と提案があった。

第 25 巻第 3 号から、日本語校閲の依頼先を安藤名誉会員から福村出版へ変更したい。

第 25 巻第 3 号に関しては、前回の常任理事会の議を経て、編集委員長一任であったため、理事長・財務担当常任理事の許諾を得、福村出版に依頼した。安藤名誉会員と同一条件で契約が成立し、校閲の質に関してもほぼ同等であった。

当面、100 頁 4 万円で実施するが、以降、支払金額については、状況に応じて理事長・編集委員長と福村出版と間で交渉を行うことになる見込みである。支払い金額が変更となる際には常任理事会の審議に諮りたい。

この提案について、次の通り、意見が交わされた。

この金額は、かなりのサービス価格である (渡邊理事長)。安藤名誉会員から福村出版への依頼変更に至るこれまでの経緯を福村出版さんが配慮して下さって、とりあえずはこれまでと同等の金額で受けてくれているが、今後は、そのままというわけにはいかない、交渉し、適正な金額をつめていくということにしたい (渡邊理事長)。財務担当常任理事としては、承認したい (尾見)。来年度から予算化したほうがよい (渡邊理事長)。ジャーナル

の質を維持するためにもやるべき（尾見）。審議の結果、この提案が承認された。

(6) 掲載論文について（審議依頼事項）

加藤委員長より掲載論文について、以下の通り提案があった。

現状は、論文の掲載の可否を常任編集委員会の審議により決定しているが、異議が唱えられたことはなく事実上、儀式化している。いち早く、J-STAGE にアップするためにも、今後は採択決定をもって常任編集委員会での審議を経たものとして掲載決定とすることを提案したい。論文1本アップするたびに常任編集委員会の承認を得なければならないのは、非効率でもある。

この提案について、次の通り、意見が交わされた。

これは、1号ごとに対面式の常任編集委員会をやっていた頃からの慣例（渡邊理事長、前編集委員長）。採択が決まった後、掲載するかどうかをそれぞれ審議してきたが、この仕組み自体が巻号ごとに審議することを前提としていたもので、現状（1本ずつ）に合わなくなっている。採択が決まったら、早期公開を行うこととし、冊子版（巻号がつくもの）については、巻号ごとに掲載するかどうかを、一応、これまで同じく、持ち回りの常任編集委員会での審議を経てはどうか（渡邊理事長）。

審議の結果、内規は現状通りとし、現状に合わせる形で運用することとし、早期公開については、これまでの内規以外の扱いとすることを申し合わせた。

2 経常的研究交流委員会（荒川委員長）

(1) 委員構成

荒川 歩（武蔵野美術大学） 委員長

服部陽介（京都学園大学） 副委員長 2017大会まで

2017年大会まで

鈴木公啓（東京未来大学） 二村郁美（名古屋大学）

中山 真（鈴鹿短期大学） 堀内由樹子（お茶の水女子大学）

2018年大会まで

後藤崇志（京都大学） 原田 新（岡山大学） 渡辺伸子（中部学院大学）

牟田李純（早稲田大学） 松尾由美（関東学園短期大学）

2019年大会まで

平野真理（東京家政大学） 中井大介（愛知教育大学） 藤本学（立命館大学）

(2) 第25回大会の企画について（報告）

荒川委員長より以下の通り実施報告があった。

シンポジウム「忘れられる？考えないようにできる？－臨床心理学・社会心理学・認知心理学の観点から紐解く意図的抑制－」には多数の参加者が参加し盛会であった。

MPPの参加者は13名。中堅の会員層にとって本学会に関わる（再度、関わる）きつ

かけとなる企画であることがうかがわれた。

プラットフォーム企画キックオフミーティングは、参加者の中で話し合い、学会主催大規模調査部会の座長を、北村英哉先生にお願いすることになった。

ソーシャルランチは、参加者9名。参加者からは極めて好評であった。特に学閥のない参加者（社会人学生や企業からの参加者）にとっては、学会で知り合いが作りにくいからということで好評であった。

(3) 現状報告と今後の予定について

荒川委員長より、**ツイッター班**の準備が完了し、海外の論文紹介、学会誌の論文紹介、広報委員会のウェブ更新情報や過去の記事紹介などを発信予定であることが報告された。また、**プラットフォーム企画**を1月7日〆切で参加者募集すること、**3月企画案**として、パーソナリティ心理学コロキウム「マインドフルネス×パーソナリティ：発掘される人間観，対照されるサイコパシー」（仮称）を開催することと、その趣旨・概要が説明された。

3月企画案について、以下の通り意見が交わされた。

臨床心理士の資格ポイントを得るための企画として条件を満たしているかを再度確認する必要がある。企画内容については提案通りでよいと考える（渡邊理事長）。参加費については、営利目的とみなされないようにする必要がある。学会員は無料にし非会員は有料とする方向で検討してはどうか。これらの意見をふまえていただき、細かな点は、荒川委員長に一任することを申し合わせた。

3 広報委員会（松田委員長欠席のため、中村事務局長が報告資料を代読）

(1) 活動報告

ウェブサイトの更新、メールニュースの配信、書評の更新などの活動内容が報告された。

(2) 委員業務分担

2016年大会時対面会議にて委員の業務分担を決めた旨の報告があった。

(3) 今後の活動予定（継続を含む）

- ・ウェブサイトの更新，メールニュースの配信（随時）
- ・委員分担コンテンツ（若手研究者の研究紹介，図書紹介）の更新
- ・webサイトの外部委託の検討

現在、業者と交渉中だが、常任理事会の審議にはかかるのは次回以降になる見込みであるとの報告があった。

- ・YPP2017の準備

4 国際交流委員会（小塩委員長）

小塩委員長より、(1)(2)の通り、第25回大会での活動概要について報告があった。

(1) 第25回大会の報告

- ・講演：Personality and Health（パーソナリティと健康の関連）
講演者：Antonio Terracciano（フロリダ州立大学）
- ・ワークショップ：Personality and Physical Health（パーソナリティと身体的健康）
企画：国際交流委員会
共催：東洋大学 HIRC21，日本社会心理学会
司会者：堀毛一也（東洋大学）
講演者：Angelina Sutin（フロリダ州立大学）
話題提供者：榊原良太（鹿児島大学），川本哲也（学振・慶應義塾大学），
西田裕紀子（国立研究開発法人国立長寿医療研究センター）
指定討論者：Antonio Terracciano（フロリダ州立大学）

(2) 招聘にかかわる会計報告

- ・収入
 - ◇ 日本社会心理学会準備委員会： 100,000
 - ◇ 東洋大学 HIRC21： 154,000
 - ◇ 日本パーソナリティ心理学会： 400,000
 - ◇ 収入計 654,000
- ・旅費・交通費
 - ◇ 航空券代・交通費 350,000（パソ心から）
 - ◇ 宿泊代金 120,000（HIRC21から）
 - ◇ タクシー代金 16,680
 - ◇ 講演謝礼
 - * 講演+WS 謝礼 100,000（パソ心から半額）
（→3つの会計から合算してこの金額を支出）
 - ◇ アルバイト代（翻訳） 5,000
 - ◇ 支出計 591,680
- ・収入計－支出計 62,320
→年度末に国際交流委員会予算の残金として学会へ返金するという処理を行うことを申し合わせた。
- ・社心…細目不要（招聘代金），東洋大…決算処理済
- ・パソ心…旅費と講演謝礼（50,000円）は処理済→計400,000円
- ・残額は現金処理を少なめに行った結果として生じたもの。

(3) 依頼論文

Sutin 先生から論文が投稿されたとの報告があった。

(4) ご相談

2017年3月末より2018年3月末まで小塩委員長が特別研究期間で国外となる旨の報告と在外期間中の対応について、以下の通り意見交換が行われた。

国際交流委員会としては、大会に外国人招聘がなければ問題ないが、招聘がある場合

は、何らかの対応が必要になる。招聘にともなう事務的なやりとりは、不在時にもメール対応は可能だろう。招聘時（大会時）のお世話を誰か（委員）にお願いする。あるいは他の常任理事にお願いするか。国際交流委員会としては、大会に招聘があれば、それに付随して企画をたてることになるというのが慣例である。

定例の常任理事会では、小塩委員長から書面を送ってもらい、事務局長が代読することを基本とし、必要がある場合は、代理（委員）を立てることを申し合わせた。

5 学会活性化委員会（山崎委員長）

(1) 優秀大会発表賞

第25回大会における優秀大会発表賞の審査を行った結果に基づいて、上位3件を優秀大会発表賞とする案が示され、審議の結果、承認された。

- ・「楽観性が代替的な目標の抑制に及ぼす影響」（外山美樹 筑波大学）
- ・「エピソード的未来思考による遅延割引の抑制効果—Big Fiveの神経症傾向との関連—」（川端野乃子・丹野義彦 東京大学／東京大学）
- ・「中高生の解離傾向が孤立傾向に及ぼす影響—パネル調査による検討—」（森彩乃 お茶の水女子大学）

優秀大会発表賞について意見交換が行われ、現状の大会発表賞については、概ね、審査の丁寧さに好評を得ているので、今後も現状を踏襲していくことを申し合わせた。少なくとも26回大会は、これまでと同様に実施する。ただし、審査の労力やコストについては、今後も検討していくことを申し合わせた。

(2) 大会ハンドブックについて

大会ハンドブック（準備委員会マニュアル）を作成し、26回大会主催校に送付したことがあった。スタッフマニュアルについても現在作成中で3月頃に完成見込みである旨のほうこくがあった。

準備委員会マニュアルについて意見交換が行われ、これをどう運用していくか、他の学会に閲覧を求められたらどうするか、などの課題が浮き彫りとなった。とりあえずは様子をみながら検討していこう（渡邊理事長）。内容的には、タイムスケジュールと国際文献社とのやりとりの記載が欠けているので、これらを盛り込んだ内容にしないとまだ不完全である（北村）などの意見が出された。

これらをふまえて、随時、リニューアルをしていくことを申し合わせた。

(3) 創立25周年シンポジウムおよび学会ロゴマークについて

創立25周年企画シンポジウムについて提案があり、実施する方向で継続検討することを申し合わせた。

ロゴマークについては、金額面を含めてもう少し具体的な提案が欲しい、ロゴが必要な積極的な意義をも少し検討してほしい（渡邊理事長）との意見が出され、継続審議を行うことを申し合わせた。

(4) 2017 年度予算について

予算案が示され、これを前提に進めていくことを申し合わせた。

6 学会賞選考委員会（北村委員長）

次の学会賞の審査準備を2月頃をめどに始める旨の報告があった。なお、北村委員長が来年度、不在となるが、メールでの審査対応を原則として行い、常任理事会での最終審議は、状況に応じて代理（委員）に出席してもらうことが提案され、承認された。

III 日本心理学諸学会連合（各種委員会からの審議依頼事項を含む）

1 日心連理事会（渡邊理事長）

今回は12/18に開催される。ここでは報告なし。

2 心理学検定（検定局員の任期満了に伴う後任者選定について）

渡邊理事長より、鈴木公啓氏に再任をお願いするとの報告がなされた。

IV 第25回大会報告（北村準備委員長）

北村委員長より、第25回大会の報告が行われた。収支決算報告については、次回の常任理事会で行う予定。

V 第26回大会準備状況について

中村事務局長が松田浩平大会準備委員長に連絡をとり、1号通信案をお送りいただき、同案を常任理事会MLで確認することを申し合わせた。次回の常任理事会では、松田浩平大会準備委員長に出席していただき、準備状況の報告を行っていただくよう依頼することにした。

審議事項

I 予算の件（尾見財務担当常任理事）

尾見財務担当常任理事より、以下の意向・要望が示された。

今年度の執行状況が遅いとの印象がある。支払い請求については、フォーマットを使用して申請してもらいたい。申請され次第、尾見財務担当常任理事の確認を経て、執行手続きを進めるという段取りで行うことが、あらためて確認された。来年度予算を組むにあたり、授業計画と共に、予算案を提出してもらうことになる。今年度の予算書を参照してもらいたい。これから来年度予算を立てて、年度内に決定しなければならない。

2017年3月末に2017年度予算（仮）を確定する。2016年度決算（仮）も3月末に確定することを申し合わせた。

II 今後の名誉会員の推挙について

中村事務局長が国際文献社から取り寄せた名誉会員の候補者リストに基づき、渡邊理事長から次のような意向が示された。同リストは、生年月日が不正確な情報も含まれているが、この機会に、これをたたき台にして名誉会員候補者をあらためて検討してもらいたい。70歳以上をめやすにしてきたが、仕事から完全に引退されている先生については70歳未満であっても、名誉会員に相応しい方は、推薦してもよいと考える。常任理事のほうで、名誉会員に推薦したい方（学会への貢献度の高い人）を事務局に推薦してほしい。そのあたりの情報提供をお願いしたい。名誉会員に相応しいのに、推挙していない先生については、年度内に名前を挙げてほしい。

III 第121回常任理事会議事録の件

審議の結果、同議事録が承認された。

IV 会員の入退会に関する件

事務局より、別紙の通り、新入会希望者15名（うち14名はML審議にて承認済み）、退会希望者7名の一覧が示され、審議の結果、承認された。併せて、あて先不明者について報告があった。

以上の承認を受けて、2016年12月9日現在、会員総数は919名である。内訳は、一般会員651名、院生会員253名、学生会員4名、名誉会員8名、賛助会員3名。

※ 今回審議対象の新規入会希望者1名は含まれない。

V 役員選挙にかかわる事務の外注について

中村事務局長より、次期役員選挙（2018年）に向けて、選挙事務の外注を前提に、業者との交渉・見積依頼の作業を進めたい旨の提案があり、承認された。

VI その他

渡邊理事長より、第27回大会を立命館大学で行うことが報告された。

VII 次回常任理事会について

今回は、2017年3月20日（月）12:00から東洋大学で行う。